

幹

五年 画数 13
筆順 カン
クシ

ナ 古 草 幹 幹
ナ 古 草 幹 幹



「のぼり」を立てた形を表した「幹」と、「木」とを組み合わせて作った「幹」が、昔の字でした。今の字は「木」の代わりに、「この字の発音を表す「干」を入れたたものです。

「草」が、のぼりをささえる「みき」なので、これに「木」を加えた「幹」は、「木の「みき」を表したたものです。例根幹。

今は、木に限らず、「物事を中心となるもの」の意味に使われています。例幹部、幹線、主幹。

使い方

▽クラスでパーティーを開くことになりました。まず幹事を選出して、それから、幹事を中心として、何をするかをみんなで相談しました。今から楽しいパーティーにしようとしてクラス全員で張り切っています。

熟語例

▽根幹（木の根と幹。また、そこから、物事の一番大切な部分。「政治の根幹を揺るがす大事件」などというふうに、つかえます。）

▽幹部（組織の中心になる人。「あの人は大会社の幹部だそうだ」というふうに、つかえます。）

▽幹線（鉄道や道路などで、中心になっている線。㊦「支線」。「雨で幹線道路が寸断されている」などというふうに、つかえます。）

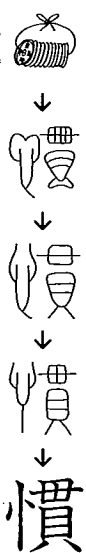
▽主幹（ある仕事の中心となる人。「今度の企画の主幹は、なかなかの技量の持ち主だ」というふうに、つかえます。）

▽幹事（ある催しの中心になって世話をする人。「忘年会の幹事」というふうに、つかえます。）

慣

五年 画数 14
筆順 カン
クシ

ナ 古 草 幹 幹
ナ 古 草 幹 幹



「貫き通す」意味の「貫」(昔、穴あき銭にひもを通してたもの)と、心の意味の「心」とを組み合わせて作った字です。

「貫き通す心」を表した字です。物事を貫き通して実行すれば、どんなにむずかしい事でも、「なれ」て、うまくできるようなるものです。「なれる」という意味を表したものです。例習慣、慣用。

「慣れて「習わし」となる」意味にも使います。例慣行、慣例、慣習。

使い方

▽「習うより慣れろ」という言葉を皆さんは知っていますか。わざわざ人から何かを習っても、それだけではうまくできるようなるとは限りません。それよりも、何回も自分でやってみて、体で慣れ覚えれば、自然に自分のものとなって身につく、という意味です。習慣というものは強いものです。何事も習慣になるまでやってごらん下さい。どんな事でも、できるようになりますよ。

熟語例

▽習慣（繰り返して行うことによって、しきたりになったこと。「毎食後、歯をみがくことが習慣になったので、虫歯は一本もなくなりました」などと、つかえます。）

▽慣用（使い慣れること。普通に使われていること。「慣用句」といえば、二つ以上の言葉が「まとまりになること」によって、ある特別の意味を持つように使い慣らされた文句のことです。）

▽慣行（習わしとして行われていること。）

▽慣例（習わし。しきたり）

▽慣習（ある社会での習わし。しきたり）